

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0772300497		
法人名	医療法人社団 仁嘉会		
事業所名	グループホーム花南会津1階		
所在地	福島県南会津郡南会津町丹藤字中川原675-6		
自己評価作成日	平成28年5月31日	評価結果市町村受理日	平成28年10月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	平成28年8月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の方が安心してすごせるよう、畑仕事や買い物・リハビリ体操教室など外出支援をしている。地域の一員として、行事や認知症カフェ「オレンジの花」を開催している。地域の開業医・訪問看護ステーションと連携し、ターミナルケアを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1、その人らしい生活を支えるため、利用者主体、個別ケアを目標に、管理者・職員が協力して一人ひとりのアセスメントに力を入れ介護計画に反映し支援に活かしている。
2、事業所や地域の行事を通じ地域との協力体制が築かれている。また認知症カフェや公開講座の開催により、行政や地域の信頼が高まり、認知症対応の拠点として期待されている。
3、職員会議では常に支援や日々の活動の振り返りが行われる他、職員の能力に応じた研修も行われ、職員の意欲を引き出すとともに人材育成につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の一員としての関わりを大切に」を理念とし、共有、実践している。スタッフルームに掲示している。	理念はリビングと職員室に掲示されいつでも確認できている。また理念を振りかえるための会議を設け、ケアと理念について話し合っている。現在利用者と地域との交流や個別ケアに力を入れ、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	丹藤区の行事(夏祭り・ほたる鑑賞)などに積極的に参加し、地域の方と交流している。しんごろう会などホームの行事にも、区の方に声をかけ、参加していただいている。地区の子供避難の家に協力している。障害者施設と交流している	保育園や地域の行事へ参加したり、事業所の行事に地域住民の参加協力が得られる他、声を掛けなくとも日常的に集まってきており、交流が深まっている。また、認知症の相談なども寄せられ、頼られる存在になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2/4公開講座を開催した。月2回、どなたでも参加できるカフェを開いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2か月1回、会議を開き、意見を参考にし介護に生かしている。	利用者の状況、行事、避難訓練、認知症カフェ、徘徊ネット等について話し合い、委員から提案があり、運営に活かされている。年1回、家族会と同日で実施する場合を除き家族の参加が少ない。	遠方や仕事の理由で家族代表の参加が困難である場合は、利用者代表の参加を検討することが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	公開講座の開催・認知症カフェの協力等、会議に出席して頂いたり、保育所との交流、行政との関わりを持ち、協力していただいている。	事業所主催の公開講座、認知症カフェ等、町の担当に相談しながら実施し、広報面で協力を得ている。在宅復帰の利用者、生活保護の利用者等連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議を開き、話し合い、常に意識している。日勤帯は施錠していない。自由に出入りして頂ける環境を作っている。搜索訓練を行っている。	マニュアルを整備し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。採用時や拘束や虐待の報道があった際、管理者から話し合いを持っている。職員会議で、不適切なケアを出し合い、言葉による拘束も含め確認し合っている。日中施錠はせず見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加したり、会議で話し合いをして意識してる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	任意代理人行政書士、成年後見人と関わっている。社協の権利擁護サービスを利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が入所前、入所時など説明している。利用料金の改定時は説明会を設けた。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価など、アンケートを実施している。年一回家族会を開催し、意見交換をいただいている。	家族会を年1回開催し、要望や意見を聞いている。面会時にも要望を聞き、外出や外泊などの要望はその都度対応している。苦情窓口の責任者は管理者である旨の広報はされているが外部の苦情相談窓口は示していない。	事業所に伝えづらいことも相談できるよう介護保険法で定められているので外部の相談・苦情窓口(市町村や国保連合会等)を重要事項説明書等に示し周知して欲しい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	理事長・事務長・管理者等と面談をおこなっている。	職員会議では指名するなど、全員に意見を出してもらう工夫をする他、行事等の振り返りを行い運営に活かしている。また、管理者面談を行い、意見や要望の把握に努める他、理事長、事務長面談も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	10年勤続表彰などおこなっている。資格取得のための支援と、待遇面での改善をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や施設内研修など出来る限り参加の機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や相互訪問等を通じて情報交換をしている		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人にあった対応を心がけ、安心できるような声かけ・傾聴に努めている。希望に応じ、買い物外出など支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを伺いながら、本人に寄り添ったケアと要望に応じられるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族と話し合い、ホームでもおちついてすせる関わりを一緒に考えている。会議で職員が共有し、よりよいサービスができるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎食の調理の下拵えをおこなっていただき、後片付けなど利用者様ができることを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は一緒に過ごして頂けるように配慮し、外出や外泊も体調、生活状況を伝え、安心できるようにしている。受診に協力していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院や本屋へ出かけたり、在宅からのかかりつけの主治医(歯科も)を継続している。	家族の協力で外泊や墓参りをしたり、友人が訪れる機会も多く関係が続いている。また、手紙や電話も職員の協力を得ながら続けている。理美容や買い物も馴染みの店を利用する等関係が途切れない支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がいつでも一緒に家事の分担や縫い物などを行なえるように支援している。車イスを押したり、みなさんそれぞれ助け合っていると思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話で様子を伺ったり、相談に応じている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、お話をしながら本人の思いを受け止め、ケア会議やカンファレンスを行い一人一人の希望、意向を尊重するよう話し合いをしている。センター方式を利用している。	個別ケアに力を入れるためアセスメントを重視し、本人の思いや意向の把握に努めている。センター方式を使い、言葉で表現できない利用者の思いも表情などから職員同士話し合い本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人から話をうかがいセンター方式も利用している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者との関わりの中で、その日の体調や思いを理解し、スタッフ同士で協力し状況把握している。ケア会でアセスメントを共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議などで、より良く過ごしていただけるように話し合いをしている。ご家族に説明をし希望も伺っている。状態の変化に合わせて、カンファレンスも行っている	介護計画は本人や家族の意向とより良い暮らし方を踏まえケア会議で検討している。モニタリングは担当職員が行うケアチェック、気づきを基に現状に即した計画を心掛けている。終末期や状況変化時は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランのチェックや気づきの記録、ケア会議、カンファレンスでの話し合いをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族構成に合わせ入院時の洗濯、買い物等の協力をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回リハビリ教室、年2回防災訓練、収穫祭等、区のしめなわ作り近隣の皆様との交流を図り楽しい環境作りを支援している。障害者施設のパン販売の交流している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個別に主治医への受診・往診の継続を支援している。状態変化時は受診、往診の対応にて支援している	契約時、希望する医療機関を聞いて、適切な医療が受けられるよう支援している。利用者の体調や状態に合わせて、通院や往診での受診体制を取っている。受診や通院は事業所が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と連携し、随時医療や介護に適切な指導や処置を頂いている。週一回バイタル測定している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の関係者と連絡を密にし、早期退院を計れるよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を尊重し、終末期に向けて医師と訪問看護師、職員が連携し一体となり支援している	契約時、重度化した場合の対応に係る指針に沿って、支援内容を説明し同意を得ている。状態変化に応じて随時話し合いを行っている。また、重度化・終末期の支援は、家族や主治医、訪問看護師、職員が連携し、チームケアで取り組んでいる。看取りに関する勉強会も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設ないの研修会や全体会、ケア会にて、急変時、事故発生時のマニュアルを作成し、知識を共有し迅速に対応を図っている。AED使用の勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々のご協力を頂きながら避難訓練を行っている。マニュアルを作成し、職員間のコミュニケーションを密にして速やかに対応出来るように安全確保に努めている。	防災委員会が中心となり、地域の防災協力員の参加を得て、火災等を想定した避難訓練等を実施したり、災害を想定した避難シミュレーションを行っている。また、水害避難マニュアルを作成し、消防署や行政機関との話し合いも行っている。水やご飯、カレー等の食料品、コンロや毛布等の防災用品を準備している。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全体会で話し合いを持ち、全職員で一人ひとりの人格を尊重し、トイレ誘導時や入浴時など誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けに努めている。	日常的に利用者の人格に配慮した、さん付けや丁寧な声かけに心がけている。また、排泄や入浴時における誘導は、プライバシーや羞恥心に配慮した、言葉かけや対応をしている。接遇に関する勉強会も実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出したい時等は、見守りしながら自己決定出来るように支援している。できるかぎり行動を見守っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レク活動、日光浴など職員の方から誘うのではなく、利用者様から声掛けして下さる様に支援している。自主的に体操をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個別に理容室に掛かったり、季節に相応しい服装が出来る様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	下ごしらえや盛り付け、料理全般、食器洗い等、個別にお手伝い頂きながら一緒に食べながら声掛けしている。	旬の物を多く採り入れ、美味しく楽しく食事が出来るよう支援している。食事の下準備や配膳、下膳等、一連の作業を利用者と職員が一緒に行っている。また、自家菜園での採りたての野菜等も、献立やおやつに反映させている。嗜好も適時把握し献立に反映させている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調管理を考え、その人に合った食べられる量、食べられる調理法を工夫しながら、体調にあわせ水分など摂って頂ける様に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯をはずしてうがいをして頂いている。歯、義歯がない方は、歯ぐきをマッサージしうがいをして頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事前、おやつ前など利用者様に合わせ、声掛けや誘導をし、トイレで排泄して頂いている。	排泄チェック表からパターンを把握して、トイレ誘導を行ったり食事前やおやつ前に声掛けを行う等、個別ケアに努めている。また、ポータブル利用からトイレでの排泄への自立に向けた取組を計画的に行い、改善した事例も出ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂って頂いたり、毎日のラジオ体操や天気のいい日は散歩をして頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様のペースに合わせ、入浴を支援している。また、足浴などの支援もしている。	本人の希望を大切にして、曜日や時間等は柔軟に対応している。入浴を拒む利用者に対しては、時間や職員を変えて、出来るだけ入浴して頂くようにしている。入浴中は職員と会話をしたり、入浴剤やユズ等で香りを楽しみながら、入浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日光浴や散歩をしたり、ボールや風船バレーなど体を動かすレクリエーションを支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は名前、日にちを声に出し確認し、服薬して頂いている。薬の内容が分かるよう、ファイルに閉じている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	縫い物や家事など、利用者様に合わせ得意な事をして頂いてる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば買い物にでかけ、ご家族との外泊、地域の行事に行く機会を作っている。リハビリ・カフェ等に参加している。	日頃から自家菜園での農作業や、事業所周辺の散歩をしたり、利用者の希望を把握し、買い物や外食、思い出の場所へのドライブ、地域の行事に参加する等、多くの外出支援をしている。また、家族の協力を得ながら、外泊や墓参り、外食等の外出支援もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望した際には一緒に買い物へ同行頂き、楽しく買い物をして頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと希望される方に都度対応している。ご家族からの電話も取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は清潔さを保ち、壁などに季節を感じられる物を装飾している。室温も居心地良く過ごせる様にしている。	環境委員会が中心となって、利用者が過ごしやすい空調管理や衛生管理がされ、玄関や廊下、居間等には、季節感が味わえるよう、季節の生花や手工芸品が飾り付けされている。また、居間のテーブル等は利用者が利用しやすく配置され、落ち着いた雰囲気の中で過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座ってテレビを見たり、会話を楽しんでいただけるよう見守りしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	ご家族との写真や植物、花を飾り本人が居心地良い空間を楽しんで頂いている。	本人や家族と相談しながら、テレビや位牌、寝具や家族写真等を持ち込み、壁面等には、自作の手工芸品等が飾られ、居心地よく生活が出来る環境づくりを支援している。また、入室する際には、必ずノックをする等プライバシーにも配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物を干したり、たたんだり、調理をしたり個別に支援をしている。		